

布川弘研究業績目録

丸田孝志・李芸

1984年

【書評】

中村政則著『日本近代と民衆：個別史と全体史』（校倉書房、1984年）『日本史研究』第267号、11月

1985年

【論文】

「山陽鉄道敷設の政治過程」『神戸市史紀要 神戸の歴史』第12号、7月

1986年

【論文】

「第一次世界大戦後の農村構造：赤穂郡有年村を中心として」『兵庫県の歴史』第22号、3月

「〈近代〉日露戦後の都市下層社会の結合関係：神戸市を中心として」〔含 質疑・討論〕（1986年度〔大阪歴史学会〕大会特集；部会報告）『ヒストリア』第113号、12月

1988年

【論文】

「資本主義確立期の都市下層社会と部落：神戸「新川」を中心に」〔含 討議〕（第25回 部落問題研究者全国集会報告：日本の民主主義と部落問題研究の課題；歴史2分科会）

『部落問題研究』第95号、8月

「賀川豊彦と労働組合」『雲の柱』第7号、6月

1989年

【論文】

「神戸「新川」の生活構造に関するノート」部落問題研究所編『近代日本の社会史的分析：天皇制下の部落問題』部落問題研究所出版部、9月

「内地雑居と外国人労働者排除の法制度：神戸沖仲仕組合の成立を中心として」『市場史研究』第6号、6月

【書評】

藤野豊・徳永高志・黒川みどり著『米騒動と被差別部落』（雄山閣出版、1988年）『歴史評論』第470号、6月

1990年

【論文】

「米騒動で鈴木商店が焼き打ちされたのはスケープゴートだったのか」藤原彰・宇野俊一・今井清一・粟屋憲太郎編『近代日本史の虚像と実像2：韓国併合～昭和の恐慌』大月書店、2月

【その他】

「史料紹介・賀川豊彦の「日記」」（水平社周辺の人びと〈特集〉）『部落問題研究』第103号、1月

1991年

【著書】

米沢和一郎・布川弘編『賀川豊彦初期史料集 1905-1914 [明治38年～大正3年]』緑蔭書房、7月

1992年

【論文】

「明治中期石川県絹業発展の構造的特質」高沢裕一編『北陸社会の歴史的展開』能登印刷・出版部、1月

「近現代史部会共同研究報告：都市「下層社会」の形成とナショナリズム」〔含 討論と反省〕（1991年度日本史研究会大会特集号：社会構造と国家の諸段階）『日本史研究』第355号、3月

「1991年度近現代部落史研究の成果と課題」（1991年部落問題研究の成果と課題〈特集〉）『部落問題研究』第119号、10月

「明治期都市職人組織の再編と社会秩序：兵庫・神戸の浜仲仕業を中心として」『人民の歴史学』第112号、6月

【その他】

「世帯の確立と社会調査」（近代日本における社会調査の成立〈特集〉）『部落問題研究』第115号、1月

1993年

【著書】

藤田弘夫編、藤田弘夫・小路田泰直・布川弘著『飢餓・都市・文化：「都市論」を超えて』柏書房、1月

『神戸における都市「下層社会」の形成と構造』（単著）兵庫部落問題研究所、1月

豊町教育委員会編『豊町史：資料編』豊町教育委員会、3月

【論文】

「報告 水平運動の研究課題：馬原鉄男「新版水平運動の歴史」をめぐって」（馬原鉄男理事追悼輯：その研究と実践を継承するもの；馬原先生の歴史研究をめぐって：新しい視点から<シンポジウム>）『部落問題研究』第121号、1月

「都市文化の拡大・浸透と水平運動の底流：都市部落改善事業を中心として」[含 討議]

（第30回部落問題研究者全国集会報告：日本の民主主義と部落問題研究の課題〈特集〉；歴史2（近代）分科会）『部落問題研究』第123号、6月

「都市の階層と民衆運動」成田龍一編『近代日本の軌跡6：都市と民衆』吉川弘文館、12月

1994年

【論文】

「帝国主義と都市「下層社会」：賀川豊彦のスラム改善事業を中心に」『人民の歴史学』第119号、4月

「戦前日本社会事業調査資料集成」と社会史研究の可能性」『日本史研究』第382号（共著）、6月

「帝国主義と都市「下層社会」：賀川豊彦の「新川」スラムでの活動を素材に 討論要旨」『人民の歴史学』第121号、10月

「「貧民」の数：明治期における「貧民」認識の意味」（数量・統計を考える〈特集〉）『日本史研究』第388号、12月

1996年

【論文】

「近代部落史研究の成果と課題(1995年)」(特集 1995年部落問題研究の成果と課題)『部落問題研究』第138号、11月

1997年

【論文】

「『自由主義史観』の提唱と近現代史研究の課題」奈良歴史研究会編『戦後歴史学と自由主義史観』青木書店、5月

「1930年代における賀川豊彦の平和運動（第二次世界大戦期の政治思想）」『日本史研究』第424号、12月

【書評】

北原糸子著『都市と貧困の社会史：江戸から東京へ』（吉川弘文館、1995年）『日本史研究』第419号、7月

1998年

【論文】

「部落問題の社会史的把握」朝治武・灘本昌久・畑中敏之編『脱常識の部落問題』かもがわ出版、5月

「日露戦後における賀川豊彦の救貧事業：「人格」を認めるということ」『日本研究』第12号、7月

1999年

【論文】

「大震災と社会」市川浩・小島基・佐藤高晴・品川哲彦共編『21世紀の教養1：科学技術と環境』培風館、2月

「都市社会史から見た国民国家の形成」（1998年度日本史研究会大会特集号：統一テーマ戦後歴史学の総括；「国民国家論」とその批判）『日本史研究』第440号、4月

「近代の社会的差別：賀川豊彦と「新川」改善事業の展開」『月刊部落問題』第271～277号、1999年7月～2000年1月

2000年

【著書】

豊町教育委員会編『豊町史：本文編』豊町教育委員会、3月

【論文】

「近現代部落史研究の成果と課題」（特集 1998年部落問題研究の成果と課題）『部落問題研究』第150号、3月

「近代の社会的差別：友愛会の歴史的意義と社会事業」『月刊部落問題』第279～311号、2000年3月～2002年11月

【書評】

徳永高志著『芝居小屋の20世紀』（雄山閣出版、1999年）『歴史評論』第599号、3月

住友陽文・河原林直人・布川弘他「近現代史部会 書評 小路田泰直『日本史の思想：アジア主義と日本主義の相克』/濱下史学と近代日本/書評 浜下武志著『香港：アジアのネットワーク都市』/国際聯盟参加と日本外交の新局面」『日本史研究』第457号、9月

【その他】

「港湾労働者から見た兵庫と神戸の近代」（特集 変わる近世近代都市・兵庫の歴史像）『歴史と神戸』第220号、6月

2001年

【論文】

「宮島の遊廓」『日本研究 特集号』第1号、3月

「大正期の地域社会における教育と天皇制：大崎下島を事例に」（シンポジウム 国民国家形成と教育・イデオロギー）『史学研究』第232号、6月

【その他】

「近代日本社会史研究と瀬戸内海」（〔地方史研究協議会 2001 年度(第 52 回)〕 大会特集 海と風土：瀬戸内海地域の生活と交流；問題提起）『地方史研究』第292号、8月

2002 年

【論文】

「近代日本における首都の役割と特質」（2001 年度日本史研究大会特集号 全体会シンポジウム テーマ 首都論の創造）『日本史研究』第476号、4月

【書評】

中川清著『日本都市の生活変動』（勁草書房、2000年）『土地制度史学』第44巻第2号

2003 年

【著書】

近現代資料刊行会編『神戸市社会調査報告書：含・兵庫県』全51巻（大正7年-昭和18年）+別冊（解説）近現代資料刊行会、9～12月（「神戸の地域性と社会調査」）
小路田泰直監修・布川弘解説『日本大博覧会と明治神宮：日本大博覧会関係史料，明治神宮関係史料』ゆまに書房、4月

【論文】

「清野県政と社会問題」『兵庫県のしおり』第5号、3月

【書評】

坂口満宏著『日本人アメリカ移民史』（不二出版、2001年）『新しい歴史学のために』第249号、4月

【その他】

「近代の社会的差別(62)1920年代の都市社会と大正10年争議(1)」『月刊人権問題』第319号、7月

「近代の社会的差別(63)近代日本の都市社会(2)」『月刊人権問題』第320号、8月

「近代の社会的差別(64)近代日本の都市社会(3)」『月刊人権問題』第322号、10月

2004 年

【著書】

朝倉尚・坂田桐子・西村雄郎・布川弘・安野正明編『21世紀の教養4：制度と生活世界』培風館、4月（「長期構造変動としての日本の『近代化』：都市の日常という視点から」）

【論文】

「移民送出の構造：彦根のカナダ移民を事例として」頼祺一先生退官記念論集刊行会編『近世近代の地域社会と文化』清文堂出版、3月

【書評】

黒川みどり著『地域史のなかの部落問題：近代三重の場合』（部落解放人権研究所、2003年）『ヒストリア』第188号、1月

秋田茂・籠谷直人編『1930年代のアジア国際秩序』（溪水社、2001年）『史学研究』第246号、9月

大西比呂志・梅田定宏著『「大東京」空間の政治史：1920～30年代』（日本経済評論社、2002年）『社会経済史学』第70巻第2号、7月

2005年

【論文】

「都市化と都市問題の成立」歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座 第8巻近代の成立』東京大学出版会、2月

【書評】

小林丈広編著『都市下層の社会史』（部落解放人権研究所、2003年）『日本史研究』第509号、1月

【その他】

「近代の社会的差別(65)連載を終わるにあたって」『月刊人権問題』第338号、2月

「「九条の会」京都講演会に参加して」（時事刻々 憲法問題と歴史研究）『新しい歴史学のために』第257号、6月

2006年

【論文】

「原爆投下の歴史的意義」広島大学文書館・原爆放射線医科学研究所附属国際放射線情報センター・平和科学研究センター編『広島から世界の平和について考える』現代史料出版、7月

2007年

【論文】

「社会的結合関係・部落・自然環境：都市史研究の立場から」（第44回部落問題研究者全国集会報告；歴史2分科会 社会運動史研究の課題と方法）『部落問題研究』第181号、6月

【書評】

高木博志著『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）『日本史研究』第542号、10月

2009年

【著書】

浜本万三著、広島大学文書館・小池聖一・布川弘・石田雅春編『花は想う人の側に咲く：浜本万三回顧録』現代史料出版、1月
『近代日本社会史研究序説』（単著）広島大学出版会、3月

2010年

【著書】

福山市史編さん委員会編『福山市史』全8巻、福山市（2010年3月～2017年3月）

【論文】

「ネットワーク論の可能性：ネグリ、ハート『マルチチュード』に学ぶ」（特集 グローバル化する世界と歴史学の課題）『新しい歴史学のために』第276号、5月

【書評】

三輪泰史著『日本労働運動史序説：紡績労働者の人間関係と社会意識』（校倉書房、2009年）『日本史研究』第580号、12月

2011年

【著書】

『平和の絆：新渡戸稲造と賀川豊彦、そして中国』（単著）丸善・叢書インテグラーレ9、1月

【論文】

「近代日本社会における「外来」と「在来」の構造的な連関」勝部真人編『近代東アジア社会における外来と在来』清文堂出版、3月

「藤田テーゼについて：歴史学の立場から」『関東都市学会年報』第13号、10月

【書評】

坂根嘉弘編『軍港都市史研究1 舞鶴編』（清文堂出版、2010年）『歴史と経済』第210号、1月

2012年

【書評】

片岡優子著『原胤昭の研究：生涯と事業』（関西学院大学出版社、2011年）『日本歴史』第766号、3月

【その他】

「生活再建の場としてのヒロシマ・ナガサキと「公」の問題」（特集を読んで[2012年8月号|特集:広島[ヒロシマ]-長崎[ナガサキ)]『建築雑誌』第1637号、10月

「友愛会と労働者教育：現代の私たちに残された課題」（特集 労働教育を見つめなおす）
『連合総研レポート』第 276 号、11 月

2013 年

【論 文】

「広島における「平和」理念の形成と「平和利用」の是認」加藤哲郎・井川充雄 編『原子力と冷戦：日本とアジアの原発導入』花伝社、3 月

2014 年

【論 文】

「日本における核の「平和利用」論の展開」高橋伸夫編『アジアの「核」と私たち：フクシマを見つめながら』慶應義塾大学出版会、3 月

「呉海軍鎮守府と地域の医療・衛生」河西英通編『軍港都市史研究Ⅲ：呉編』清文堂出版、4 月

中尾治子・布川弘「現代日本の女性に課せられたくびき」福原裕二・吉村慎太郎編『現代アジアの女性たち：グローバル化社会を生きる』新水社、10 月

「広島都市形成と第五師団」坂根嘉弘編『地域のなかの軍隊 5：西の軍隊と軍港都市：中国・四国』吉川弘文館、11 月

【書 評】

藤野豊著『戦後日本の人身売買』（大月書店、2012 年）『日本歴史』第 790 号、3 月

【その他】

「初代の呉海軍病院長 豊住秀堅」河西英通編『軍港都市史研究Ⅲ：呉編』清文堂出版、4 月

「産経新聞事件と学問の自由」『人間と教育』第 84 号

2015 年

【その他】

「大正政治史の再検討：立憲制を中心に <コメント>」（合評会 曾田三郎著『中華民国の誕生と大正初期の日本人』思文閣出版、2013 年、広島中国近代史研究会第 158 回例会）『拓溪』第 2 号、7 月

2016 年

【論 文】

「核の傘」と核武装論」小路田泰直・岡田知弘・住友陽文・田中希生編『核の世紀：日本原子力開発史』東京堂出版、3 月

「日本の国立大学における教養教育の現状について考えること」広島大学大学院総合科学研究科編、青木利夫・平手友彦責任編集『世界の高等教育の改革と教養教育：フンボルトの悪夢』丸善出版、3月

【その他】

義倉史編纂委員会編『義倉二百年史』（資料編Ⅱ（近代・明治））、一般財団法人義倉
* 平下義記との共同編集

2017年

【著書】

福山市史編さん委員会編『福山市史：原始から現代まで』福山市（「明治四年の一揆」「歩兵第四十一連隊転営がもたらしたもの」）、3月

楠忠之著、石田雅春、布川弘編『楠忠之のオーラル・ヒストリー』広島大学文書館、10月

【論文】

「ライシャワーのアジア認識と日本」水羽信男編『アジアから考える：日本人が「アジアの世紀」を生きるために』有志舎、3月

【その他】

荒谷孝昭・布川弘・石田雅春共著「原爆被災前後の思い出」『広島大学文書館紀要』第19号、2月

「歴史手帖 被爆体験の継承について」『日本歴史』第830号、7月

2018年

【著書】

『〈近代都市〉広島形成』（単著）吉川弘文館、3月

被爆70年史編修研究会編『広島市被爆70年志：あの日までそして、あの日から：1945年8月6日』広島市、7月

【書評】

町田裕一著『近代都市の下層社会：東京の職業紹介所をめぐる人々』（法政大学出版局、2016年）『日本史研究』第675号、11月

2019年

【その他】

義倉史編纂委員会編『義倉二百年史』（資料編Ⅲ（近現代・大正～平成））一般財団法人義倉
* 平下義記との共同編集

※ この他、彦根市史編集委員会編『新修彦根市史』全12巻、彦根市(2001年3月～2015年1月)などの編集にも従事した。